

校長室だより



平成22年(2010年)7月20日

校長 箱家 勝規

着実に成長したこと

1学期は数ヶ月間でしたが、どの学年の生徒も大きな成長をして終えようとしています。

1年生は、「葛川ふるさと体験学習」の活動を通して、「仲間との協力」や「役割を果たす」ことの大切さを学びました。小学校から大事に育てられた力が、中学校の「葛川ふるさと体験学習」という場で、大きく実を結んだ結果だと思います。

1学期末の学年集会では、「1学期のまとめと2学期の抱負」を学級委員がしっかり発表してくれて、まとまりのある学年であること、「やるべき時にはやる」学年であることがあらためて伝わってきました。2学期の体育大会、文化祭に向けて大きな期待を感じずにはられませんでした。

2年生は、学校とはまた違い、責任を持ち、与えられた仕事を懸命に取り組む姿がキャリアチャレンジで見られました。

私は、前日に、「人はなぜ働くのか」という宿題を出しましたが、その答えをその後、ひとりひとりが作った新聞で読ませてもらいました。

ある生徒は、「働くことは『楽』ではないということだ。働いている皆さんは、自分の仕事に誇りを持ち、そして、何が何でもお客さんを第一に考えていて、お金儲けのためだけではないということがわかった。『人のために働く』ということは、やりがいがあり、とても楽しいということもわかった。」と書いていました。

どの生徒も、「働く」という意味をよく考え、自分なりに表現してくれていました。

3年生は、6月上旬に修学旅行がありました。修学旅行というのは、滋賀県から離れたところで、多くのさまざまな生き方をしている大人の人と、経験の少ない生徒とが触れあい、認めてもらい、自信をつけられるよい機会だと私は思っています。

また、7月上旬のボート体験では、インストラクターから直接指導を受け、湖面を懸命に漕ぐことを通して、身体全体の使い方や4人が息を合わせる大切さなどを学びとれたことと思います。

学校外の経験豊かな大人の方から認めてもらい、自信につながったことから、学校で学んできたことと社会とのつながりを意識できたよい機会になりました。このことが自分の生き方に何らかの影響を受けたに違いないと思っています。



どの学年の生徒も、たった数ヶ月のことですが、学校生活や大きな行事を通して、着実に大きく成長していることがわかりました。